

日本陸水学会第 80 回大会プログラム
2015 函館

会期 2015 年 9 月 26 日（土曜日）～29 日（火曜日）

会場 北海道大学函館キャンパスおよびロワジールホテル函館

大会日程

月 日	時 間	行 事	会 場
9 月 26 日（土）	10:00～12:00	拡大幹事会	北海道大学 A 会場
	11:00～13:00	企画委員会	B 会場
	13:15～15:15	和文誌編集委員会	A 会場
	13:15～15:15	英文誌編集委員会	B 会場
	15:30～18:30	評議員会	A 会場
9 月 27 日（日）	9:00～	受付	北海道大学 1 階受付
	9:30～12:00	公開シンポジウム I	大講義室
	12:15～13:00	ランチョンセミナー 1～4	A 会場
	13:30～17:00	公開シンポジウム II	大講義室
	17:30～	自由集会	
9 月 28 日（月）	7:45～13:00	エクスカーション（大沼）	JR 函館駅集合
	8:30～	受付	北海道大学 1 階受付
	9:00～12:00	一般講演	A, B, C 会場
	12:10～12:55	ランチョンセミナー 5～7	A 会場
	13:00～17:00	一般講演	A, B 会場
	13:00～17:00	陸水動物ベントス同定会	C 会場
9 月 29 日（火）	8:30～	受付	北海道大学 1 階受付
	9:00～11:30	一般講演	A, B, C 会場
	9:30～11:15	課題講演	D 会場
	10:00～14:00	ポスターセッション	ポスター会場
	11:30～13:30	ポスター・コアタイム	ポスター会場
	14:00～15:00	学会賞授賞式	大講義室
	15:00～17:30	総会	大講義室
	18:30～20:30	懇親会	ロワジールホテル函館

A 会場（第 1 講義室），B 会場（第 2 講義室），C 会場（第 5 講義室），D 会場（第 6 講義室）
大講義室（公開シンポジウム），ポスター会場（第 3 講義室）

日本陸水学会第 80 回大会（函館大会）JLIM80 実行委員会

（北海道大学大学院水産科学研究院内 〒041-8611 北海道函館市港町 3-1-1）

大会委員長 今井一郎（E-mail: imai1ro@fish.hokudai.ac.jp）

大会案内

1. 受付

- ・受付は9月27日（日）午前9：00 から北海道大学水産学部講義棟1階で行います。
- ・当日参加費は一般会員 7,000 円，学生会員 4,000 円，一般非会員 8,000 円，学生非会員 4,000 円です。
- ・講演要旨集のみの方は 5,000 円で販売いたします。
- ・受付で名札，講演要旨集をお渡しします。会場内では，必ず名札をつけてください。

2. 一般講演・口頭発表（北海道大学水産学部 9月28日，29日）

- ・講演時間は，発表12分，質疑3分の合計15分です。1鈴10分（予鈴），2鈴12分（発表終了），3鈴15分（講演終了）を鳴らします。
- ・発表では，原則として液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは Windows パソコンに接続しますので，Power Point のファイルを USB メモリーもしくは CD-R に保存してお持ちください。ファイルは発表前に発表会場に備えているノートパソコンにご自身でコピー下さい。それ以外の場合は，パソコンやケーブル等をご持参いただき，各自発表の準備をしてください。ご自身のパソコンを接続・復旧する時間，ファイルをコピーする時間も発表時間を含めますのでご注意ください。
- ・優秀講演審査対象セッションは9月28日 A, B 会場で 13:00～17:00 の時間帯に行います。詳しくはプログラムをご覧ください。

3. ポスター発表（北海道大学水産学部ポスター会場（第3講義室）9月29日）

- ・ポスターのパネルの大きさは，縦163 cm，横83 cm です。
- ・ポスターは9月29日（火）の10：00 までにご掲示ください。
- ・ポスター発表のコアタイムは，29日（火）の11：30 から13：30 です。ポスターの発表者は，この時間帯には必ず自分の発表するポスターの前で待機し，説明してください。
- ・ポスター賞対象発表のポスターには目印を付けます。
- ・ポスターは，29日15:00 までにご撤去ください。

4. 課題講演

- ・課題講演

「ユスリカ科昆虫の多様性研究の進展 - 形態分類と DNA バーコーディングの両輪 - 」

コンピーナー：高村健二（国環研）

会場：北海道大学水産学部（函館）D 会場（第6講義室）

日時：9月29日（火）9:30～11:15

5. 公開シンポジウムⅠ・Ⅱ（北海道大学水産学部（函館）大講義室 9月27日）

- ・日本陸水学会企画委員会主催公開シンポジウムⅠ

「技術革新がもたらす陸水・沿岸環境学の新展開」

コンピーナー：北澤大輔・山室真澄（東京大）

会場：北海道大学水産学部（函館）大講義室（9月27日，日曜日）9:30～12:30

- ・日本陸水学会 2015年函館大会 公開シンポジウムⅡ

「北海道渡島大沼の自然と歴史，課題と将来展望」

コンピーナー：田中邦明（北教大函館）・池田 誠（北海道国際交流セ）・

伴 修平（滋賀県大）・今井一郎（北海道大）

会場：北海道大学水産学部（函館）大講義室（9月27日，日曜日）13:30～17:00

6. 自由集会

- ・自由集会 「陸水物理研究会」

世話人：知北和久（北海道大）

会場：北海道大学水産学部（函館）A会場（第1講義室）

日時：9月27日（日）17:30～

7. 陸水動物ベントス同定会

日時：9月28日 13:00～17:00（コアタイム13:00～15:00）

担当：谷田一三（大阪市立自然史博物館）、鳥居高明（いであ株式会社、環境創造研究所、生物多様性研究センター環境生態部）、山室真澄（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

会場：北海道大学函館キャンパス講義棟2階第5講義室（C会場）

8. 機器展示

・9月27日（日）～28日（月）9:30～17:00，北海道大学水産学部（函館）第4講義室（休憩室を兼ねる）にて開催します。

※機器展示会場内に，カフェレストコーナーを設置してあります。

9. ランチョンセミナー

企業によるランチョンセミナーを開催します。

- ・ランチョンセミナー1

9月27日（日）12:15～12:30，A会場

提供：三井造船（株）

- ・ランチョンセミナー2

9月27日（日）12:30～12:45，A会場

提供：株式会社ハイドロ・システム開発

- ・ランチョンセミナー3
9月27日（日）12:45～13:00, A会場
提供：JFEアドバンテック株式会社
- ・ランチョンセミナー4
9月27日（日）13:00-13:15, A会場
提供：環境システム株式会社
- ・ランチョンセミナー5
9月28日（月）12:10-12:25, A会場
提供：日本海洋株式会社
- ・ランチョンセミナー6
9月28日（月）12:25-12:40, A会場
提供：株式会社アムコ
- ・ランチョンセミナー7
9月28日（月）12:40-12:55, A会場
提供：株式会社エス・イー・エイ

10. エクスカーション（大沼国定公園クルージング）

・エクスカーションは大沼で約2時間のクルージングを行います。JRで往復します。大沼遊船の遊覧船（50名乗船可能）を貸し切り、9:00出港、11:00帰港、北海道大学水産学部に13:00頃戻ります。参加人数が20名以下の場合や、風が10m以上で安全性が確保できない場合には中止します。

時間	内容
7:45	集合時間, 点呼 (JR 函館駅集合)
8:13	特急 スーパー北斗3号 函館駅出発
8:35	大沼公園駅到着, トイレ休憩
9:00	乗船, 出航
移動	田中邦明教授 (北海道教育大学函館校) による大沼の紹介と案内
9:40	湖心到着・大沼の紹介と案内
10:30	湖心を出発
11:00	帰港, 大沼公園散策
12:10	JR 乗車, 出発
12:47	JR 五稜郭駅到着, 北海道大学, 大会会場

11. 懇親会

- ・9月29日（火）18:30～20:30 に、JR 函館駅前のロワジュールホテル函館で開催します。

なお、当日の参加も可能ですので、奮ってご参加ください。当日の会費は、一般7,000円、学生は5,000円です。多数の方の参加をお待ちします。

12. 昼食

- ・昼食は大会期間中、生協食堂および大学周辺の食堂をご利用ください。
- ・ランチョンセミナーでは提供企業により弁当を半値にて配布しますが、数に限りがあります。配布は12:00から行い先着順です。

13. 休憩室

- ・休憩室は北海道大学水産学部講義棟の第4講義室1ヶ所に設置します。企業の展示室を兼ねております。ご見学、ご休憩、昼食等にご利用下さい。飲み物をご用意しています。

14. クローク

- ・講義棟2階の第7講義室（大会本部）にクロークスペースを用意する予定です。荷物等の保管にご利用下さい。ただし、係はおりますが荷物の管理や施錠は致しません。貴重品等は置かないようにお願いします。

15. フリーWiFi

- ・北海道大学のご厚意により、フリーのWiFiがご利用できます。氏名・所属等を登録の上ご利用下さい。数に限りがありますので、詳しくは係にお尋ね下さい。

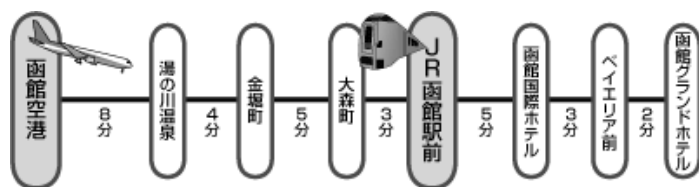
16. 大会会場（北海道大学函館キャンパス）へのアクセス

函館空港から函館駅まで

函館空港から函館駅まではシャトルバスが便利です。

飛行機の発着時間に合わせて運行されており、運賃は410円です。所要時間はおよそ20分です。

タクシーは常時待機しております。およそ3000円程度です。



※詳しい運行情報はこちらをご参照ください。

<http://www.hakobura.jp/access/citytraffic.html>

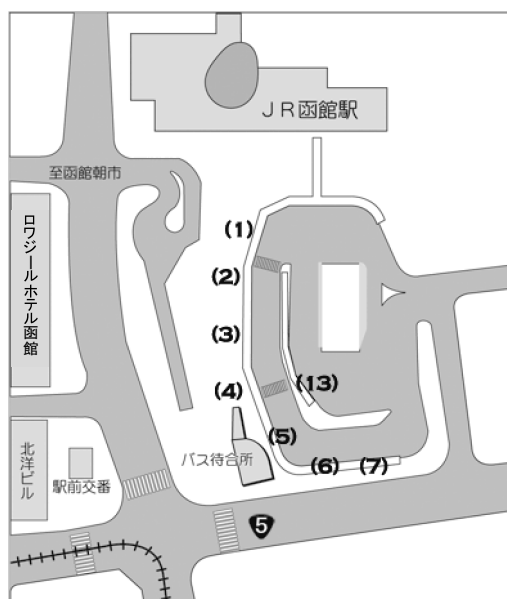
函館空港発	函館駅前着
8:30	8:50
8:40	9:00
9:30	9:50
9:40	10:00
11:05	11:25
11:15	11:35
⋮	⋮

1. JR 函館駅から北海道大学函館キャンパスまでバスの場合

複数の系統の路線バスで向かうことができますが、各路線とも本数が少なく、全体で1時間に1本程度の運行です。予めご注意ください。

- 1) 函館駅の1番乗り場で101系統「上磯・茂辺地」行きに乗車し、北大前で下車して下さい。
- 2) 函館駅の6番乗り場から系統無し「木古内・小谷石」行きに乗車、北大前で下車して下さい。
- 3) 函館駅の1番乗り場から2系統「大野駅・峠下」行きに乗車し、北大裏で下車して下さい。
- 4) 函館駅の1番乗り場から123系統「大野白川経由・七飯方面」行きに乗車し、北大裏で下車して下さい。
- 5) 函館駅の1番乗り場から系統無し江差線「江差ターミナル」行きに乗車し、北大裏で下車して下さい。

※ 詳しくは、こちらをご参照ください。<http://www.hakobus.jp/>

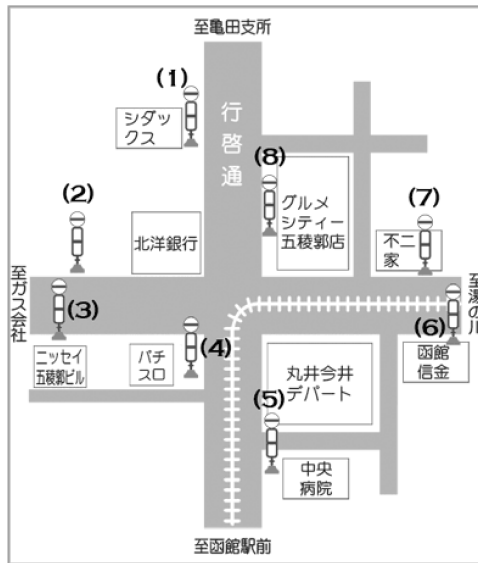


函館駅バス乗り場

2. 五稜郭から北海道大学函館キャンパスまでバスの場合

- 1) 五稜郭の3番か6番乗り場から16系統「フェリー前」行きに乗車、北大前で下車して下さい。
- 2) 五稜郭の3番または6番乗り場から112系統「昭和ターミナル」行きに乗車、北大裏で下車して下さい。
- 3) 五稜郭の3番乗り場から122系統「大野駅前」行きに乗車、北大裏で下車して下さい。

※ 詳しくは、こちらをご参照ください。<http://www.hakobus.jp/>



五稜郭バス乗り場

3. 電車の場合

JR 函館駅から JR 函館本線・JR 江差線に乗り JR 五稜郭駅で下車してください。その後、徒歩で約 20 分です。タクシーでおよそ 10 分です。徒歩の場合は、五稜郭駅下車後、YAMADA 電機の横の歩道橋を越え、北西に向かう大野新道をお進み下さい。

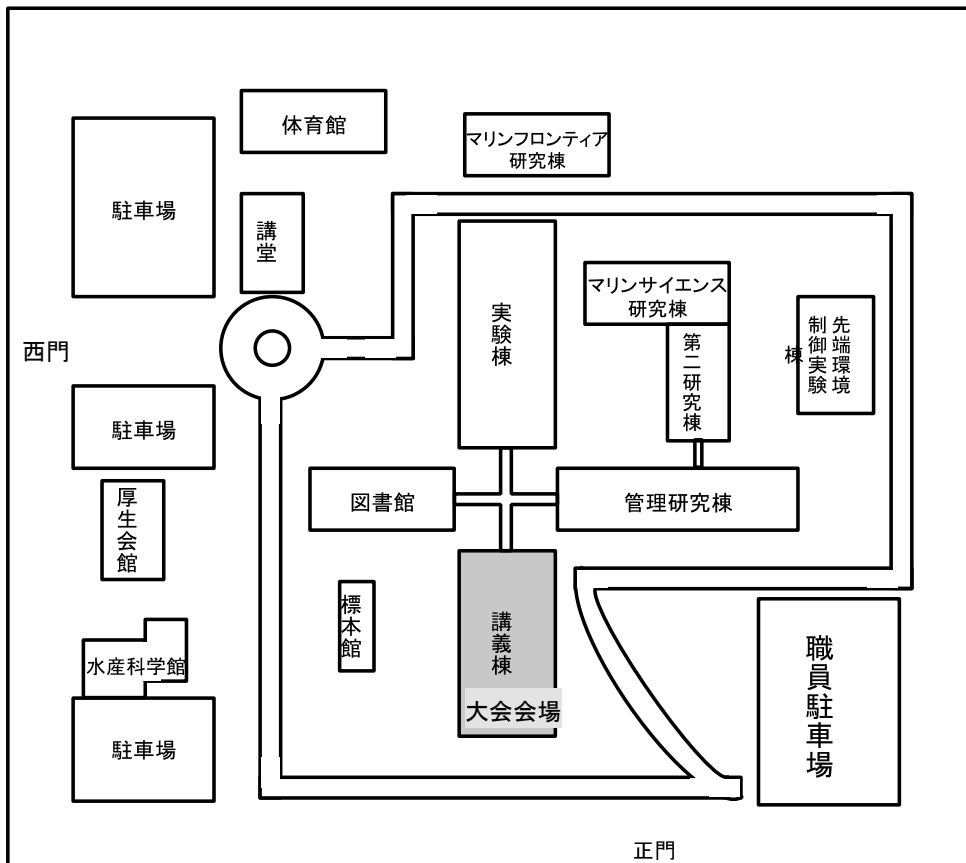


4. 自動車の場合

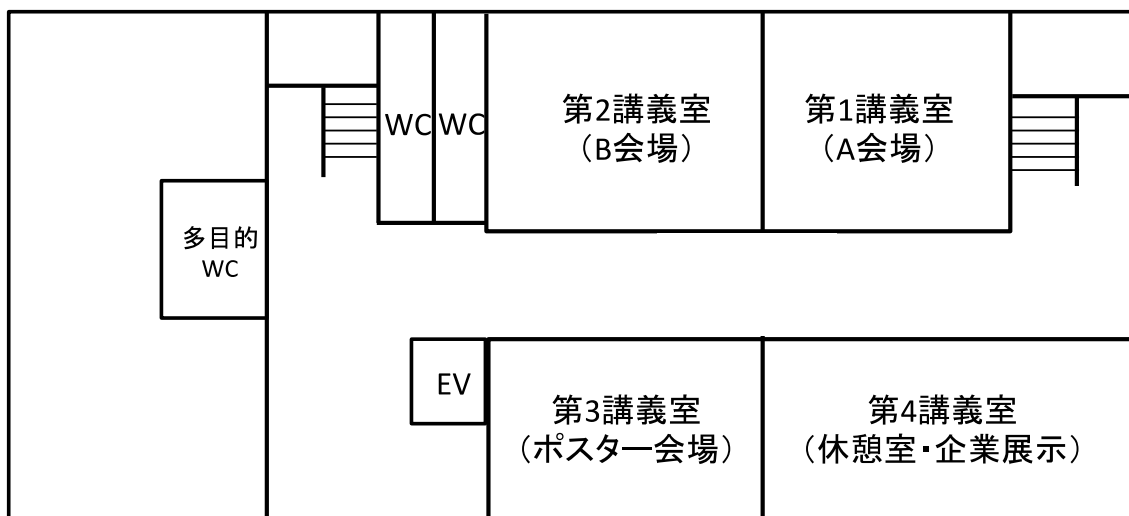
自動車でお越しの際は、北海道大学函館キャンパス駐車場をご利用下さい。学会会期中は無料をご利用頂けます。

下記の大会会場の見取り図をご参照下さい。

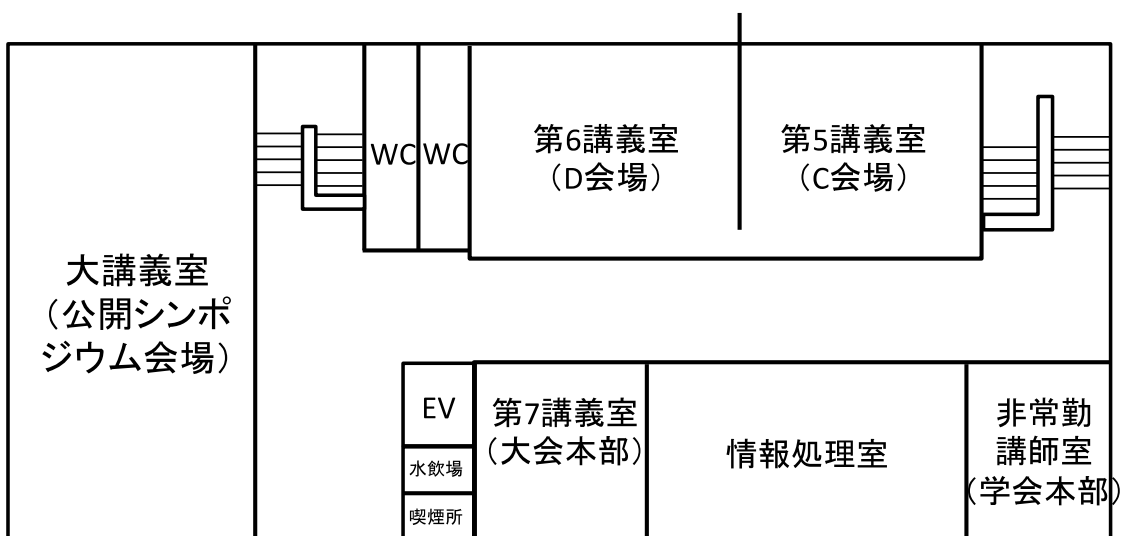
15. 大会会場（北海道大学函館キャンパス）



講義棟 1 階平面図



講義棟 2 階平面図



日本陸水学会第 80 回函館大会 公開シンポジウム I のご案内

技術革新がもたらす陸水・沿岸環境学の新展開

開催日時：2015 年 9 月 27 日（日）9:30～12:00

開催場所：北海道大学水産学部（函館）大講義室

コンビーナー：北澤大輔・山室真澄（東京大）

趣 旨：

海洋における技術開発は、産業面（海底ケーブル、海底鉱床など）や軍事面（潜水艇検知や魚雷探査など）の需要もあることから、欧米を中心に盛んに取り組まれている。これらの最新技術は、例えば潜水艇に見られるように、大型の母船とセットで行われていることが多い。このため、小規模な水塊が多い湖沼や、水深が浅い沿岸域などでの最新技術の普及はほとんど進んでこなかった。

一方で、アレック電子(当時)や堀場製作所が開発したコンパクトな水質計は、海洋学で求められていた微小な密度差の検出という用途というよりも、精度を落としても小型化や操作の簡易化を進めることで、塩分変化が大きい沿岸域での漁場モニタリングや湖沼における簡便な調査などを中心に普及し、海外へも輸出されるヒット商品となった。一方、琵琶湖における AUV（自律型水中ロボット）を使用した観測や、気球と ROV（有索型水中ロボット）を使用した亜熱帯海草藻場のマッピング、超音波技術を応用した水草群落現存量の定量化など、海洋で開発された技術の陸水・沿岸域環境学への適用が日本などを中心に行われ、成果をあげつつある。しかしながら、プラットフォームの維持に経費がかかるなど、小規模水域ならではの困難さも浮き彫りになってきている。

このような状況を背景に、本シンポジウムでは陸水学や海洋学でこれまでに行われた先進的な計測手法の適用例と今後に向けた課題を整理し、さらに海洋分野で開発されている新しい計測技術を紹介することによって、陸水学と海洋学の接点と俯瞰し、学際的イノベーションに基づく新展開の可能性などについて議論を行いたい。

講 演：

9:30 趣旨説明

9:35 話題提供

9:35 Warwick Vincent（ラバル大）：北米における陸水・海洋観測機器開発の動向

10:00 熊谷道夫（立命館大）：湖沼観測への AUV の適用と今後の展開

10:25 小池勲夫（JST/CREST 海洋生物多様性領域）：

海洋における生態系・生物多様性研究のための大型技術開発

10:50 *山崎秀勝・長井健容・近藤逸人（東京海洋大）・Herminio Folo (JFE アドバンテック)・増永英治(東京海洋大)・Hua Li (JFE アドバンテック)・Darek Bogucki (Texas A&M 大)：海洋における乱流計測の新技術

11:15 浦 環（九州工大）：海のジパング計画

11:40 総合討論

12:00 閉 会

(本シンポジウムは公益財団法人河川財団による河川整備基金の助成を受けています)

日本陸水学会第 80 回函館大会 公開シンポジウム II のご案内
北海道渡島大沼の自然と歴史、課題と将来展望

開催日時：2015 年 9 月 27 日（日）13:30～17:00

開催場所：北海道大学水産学部（函館）大講義室

コンビーナー：田中邦明（北教大函館）・池田 誠（北海道国際交流セ）・

伴 修平（滋賀県大）・今井一郎（北海道大）

趣 旨：

北海道七飯町にある大沼湖沼群は、駒ヶ岳南山麓に位置し、大沼、小沼、蓴菜沼と 2～3 の小池沼より成る。これらは駒ヶ岳より噴出した泥流による河谷の堰き止めに地盤陥没が伴って生じ、500 年前にできたと考えられている。主要 3 湖沼では大沼が最大で、蓴菜沼が最も小さい。大沼の標高は 130m、最大水深は 13.6m、平均水深は 4.7m、湖面積は 9.05 km²、集水域面積は 196.5 km² である。大沼には、宿野辺川、軍川、苅間川が流入し、大沼と小沼はセバット（狭戸）と呼ばれる地峡部で繋がっている。今日、小沼の水は湖南西端の取水口より排出され、発電と大野平野の灌漑に利用されている。

渡島大沼の集水域では、1990 年以降畜産業が活発化し、現在約 8 千頭の肉牛と 3 千頭の乳牛が飼養されている。畜産廃棄物の排出量も莫大で、2010 年には推計 91,000 t に達し、主に堆肥として流域農地に施用されている。しかし、リンや窒素の負荷により、大沼の富栄養化が顕在化してきた。近年では、ほぼ毎年夏季に有毒種 *Microcystis aeruginosa* をはじめとする有害有毒藍藻類ブルームのアオコが発生しており、魚介類の斃死や湖水の悪臭、景観の悪化等を招く等、早急な対策が必要となっている。

大沼は 2012 年 7 月にラムサール条約湿地に登録され、水鳥等の生息する重要な湿地として、より一層自然環境の保全が重要視されるようになった。このような状況を背景に本シンポジウムでは、大沼湖沼群の自然と歴史を俯瞰し、代表的な環境問題であるアオコの問題を総括する。そして湖沼と人との関わりの歴史の長い琵琶湖について学ぶべき点を整理する。さらに次世代を担う青少年を対象に、大沼を舞台として持続可能な未来の為の教育を念頭に環境保全を目指した環境教育の可能性を論じる。ラムサール条約と同時にラムサール協議会が七飯町に設置されたが、その活動と課題を紹介し、将来の大沼のあるべき姿について議論し将来を展望する。

講 演：

13:30 趣旨説明：田中邦明（北教大）

13:35 伴 修平（滋賀県大）：大沼湖沼群の自然と歴史

14:05 *宮下洋平・今井一郎（北海道大）：

大沼におけるアオコ問題の現状、課題と対策

陸水動物ベントス同定会のご案内

日時：2015年9月28日 13:00-17:00 (コアタイム 13:00-15:00)

会場：北海道大学函館キャンパス講義棟2階第5講義室 (C会場)

担当：谷田一三 (大阪自然史博)・鳥居高明 (いであ株)・山室真澄 (東京大)

趣 旨：

生態研究の基本の1つが正確な生物種の同定であることは、古くはエルトンによる指摘がある。DNAなどによって生物種や集団の区別ができるようになって、形態学的な分類手法の必要性は高い。分子的手法で隠蔽種が発見された場合も、そこには微細ではあるが形態学的な種差が確認されることも多い。昨年のつくば大会で好評だったことから、今大会でも企画委員会のサポートのもとに、陸水動物ベントス同定会を実施して、形態観察の着眼点等を解説する。

本同定会では、多くのベントス群の分類同定に経験豊かな担当者が、参加者によって持ち込まれた淡水動物ベントスを形態学的に分類同定するとともに、鑑別の方法や課題も紹介する。また、分類同定に必要な文献情報なども提供する。分類同定には、最新鋭のデジタルマイクروسコープを利用するので、大画面で特徴を確認することもできる。水生昆虫類の幼虫や、水生貧毛類、甲殻類、ダニ類などの持ち込みは特に歓迎する。

会員による書籍販売コーナーの設置

日時：2015年9月27日(日)10時~9月28日(月)17時

場所：第4講義室(休憩室・企業展示)

書籍：売り上げ収益の一部は学会に寄付されます。

- (1) 水圏環境化学 (Alan.G.Howard 著, 奥村 稔・藤永 薫・清家泰訳, 2007年, WORDS 出版)
- (2) グローバル社会における環境問題への対応 (お茶の水女子大学編, 2011年, インデックス出版)
- (3) 流域圏からみた日本の環境容量-日本のバイオリージョン・全国109流域 3D-GIS MAP- (大西文秀著, 2013年, 大阪公立大学共同出版会)
- (4) Physical Processes in Lakes and Oceans (Jorg Imberger 編, 1998年, AGU 出版)
- (5) 琵琶湖は呼吸する (熊谷道夫・浜端悦治・奥田 昇, 2015年9月30日, 海鳴社)

座長一覧 (氏名 [敬称略]・担当講演番号)

28日午前

中村剛也	2A01~2A04	木村成子	2A05~2A08	東城幸治	2A09~2A12
海老瀬潜一	2B01~2B03	高村典子	2B04~2B07	神谷宏	2B08~2B11
山室真澄	2C01~2C04	原田健一	2C05~2C08	福原晴夫	2C09~2C12

28 日午後

中野伸一	2A13～2A16	石川俊之	2A17～2A20	吉田丈人	2A21～2A24
平林公男	2A25～2A28				
藤井智康	2B12～2B14	井上源喜	2B15～2B18	早川和秀	2B19～2B22
野原精一	2B23～2B25				

29 日午前

野崎健太郎	3A01～3A03	西川潮	3A04～3A06	酒井陽一郎	3A07～3A09
中野大助	3B01～3B04	清家 泰	3B05～3B09		
知北和久	3C01～3C03	千賀有希子	3C04～3C06	岸本直之	3C07～3C10

第一日目（9月27日 日曜日）午前

	北海道大学函館キャンパス大講義室
	日本陸水学会企画委員会主催公開シンポジウム 「技術革新がもたらす陸水・沿岸環境学の展開」
開始時間	コンビナー 北澤大輔・山室真澄（東京大）
9:30	開会，趣旨説明 北澤大輔（東京大）
9:40	1S11 北米における陸水・海洋観測機器開発の動向 Warwick Vincent（ラバル大）
10:05	1S12 湖沼観測へのAUVの適用と今後の展開 熊谷道夫（立命館大）
10:30	1S13 海洋における生態系・生物多様性研究のための大型技術開発 小池勲夫（JST/CREST 海洋生物多様性領域）
10:55	1S14 海洋における乱流計測の新技術 山崎秀勝・長井健容・近藤逸人（東京海洋大）・Herminio Folo（JFEアドバンテック）・増永英治（東京海洋大）・Hua Li（JFEアドバンテック）・Darek Bogucki（Texas A&M 大）
11:20	1S15 海のジパング計画 浦 環（九州工大）
11:45	閉会挨拶 山室真澄（東京大）
11:50	閉 会
	A会場（講義棟：第1講義室）
	ランチョンセミナー
12:15	ランチョンセミナー1 提供：三井造船（株）
12:30	ランチョンセミナー2 提供：株式会社ハイドロ・システム開発
12:45	ランチョンセミナー3 提供：JFEアドバンテック株式会社
13:00	ランチョンセミナー4 提供：環境システム株式会社

第一日目（9月27日曜日）午後

	北海道大学函館キャンパス大講義室
	日本陸水学会函館大会実行委員会主催公開シンポジウム 「北海道渡島大沼の自然と歴史，課題と将来展望」
開始時間	コンビナー 田中邦明（北教大函館）・池田 誠（北海道国際交流セ）・伴 修平（滋賀県大）・ 今井一郎（北海道大）
13:30	開会，趣旨説明 田中邦明（北教大函館）
13:35	1S21 大沼湖沼群の自然と歴史 伴 修平（滋賀県大）
14:05	1S22 大沼におけるアオコ問題の現状，課題と対策 宮下洋平・今井一郎（北海道大）
14:35	1S23 里湖としての琵琶湖から学ぶこと 一瀬 諭（滋賀琵琶環研セ）
15:05	（休 憩）
15:20	1S24 持続可能な未来のための教育(ESD)による湖沼環境保全の取り組み 田中邦明（北教大函館）
15:50	1S25 大沼ラムサール協議会の活動と課題 池田 誠（北海道国際交流セ）
16:20	総合討論
16:55	閉会挨拶 今井一郎（北海道大）
17:00	閉 会
	A 会場（講義棟：第1講義室）
17:30	自由集会

第二日目 (9月28日月曜日) 午前

開始時間	A 会場 (講義棟: 第1講義室) 藻類・植物・陸水環境
9:00	2A01 漂着した水生植物による山中湖への窒素・リン負荷量の推定 *長谷川裕弥・吉田一家 (山梨衛環研)
9:15	2A02 アオミドロ属 <i>Spirogyra variformis</i> TRANSEAU の春季の消長 野崎健太郎 (椛山女学園大)
9:30	2A03 本邦における <i>Pseudoanabaena</i> 属の分子系統とカビ臭 (2-MIB) 産生遺伝子 *辻 彰洋・新山優子 (科博)
9:45	2A04 鳥取県湖山池に出現した珪藻類 <i>Chaetoceros</i> 属について *石井健一郎 (京大)・山口峰生・外丸裕司 (水研セ瀬水研)・神川龍馬 (京大) *石川 輝 (三重大)・今井一郎 (北海道大)・宮下英明 (京大)
10:00	2A05 琵琶湖周辺内湖における栄養塩負荷, 湖内生産とセストン C:N:P 比 *土居俊平 (滋賀県大)
10:15	2A06 琵琶湖における植物プランクトンバイオマスとメタロゲニウム粒子発生との関係 *古田世子・一瀬諭・岡本高弘・藤原直樹 (滋賀琵琶湖環科研セ)・宮田直幸 (秋田県大)
10:30	2A07 伊豆沼のハス群落拡大によるメタン食物連鎖への影響 *安野翔 (仙台市)・迫裕樹・鹿野秀一 (東北大)・芦澤淳・藤本泰文・嶋田哲郎 (伊豆沼財団)・菊池永祐 (宮城教育大)
10:45	2A08 大河川における窒素・リンのスパイラルメトリクスの推定 小林勇太 (横浜国大)・*岩田智也 (山梨大)
11:00	2A09 溶存酸素の連続測定による大規模河川の生産力推定 中野大助・鈴木準平・山本亮介・今村正裕 (電力中研)
11:15	2A10 河川における流量の変化が有機物代謝に及ぼす影響 萱場祐一・宮川幸雄 (土木研)
11:30	2A11 湖沼生態系の自然再生: 福井県三方五湖における現状と課題 吉田丈人 (東京大)
11:45	2A12 淡水域の生物多様性評価と保全について 高村典子 (国環研)
12:10	ランチョンセミナー 5 提供: 日本海洋株式会社
12:25	ランチョンセミナー 6 提供: 株式会社アムコ
12:40	ランチョンセミナー 7 提供: 株式会社エス・イー・エイ

第二日目（9月28日月曜日）午前

開始時間	B会場（講義棟：第2講義室） 河川・地下水
9:00	<p>2B01 キレート樹脂を用いた河川水および地下水中の希土類元素分析手法の検討 *渡邊隆広・國分陽子・村上裕晃・岩月輝希（日本原研）</p>
9:15	<p>2B02 地下水の水質と理化学性のクラスター分析によるグループ化に関する研究 咸 泳植（東京都市大）</p>
9:30	<p>2B03 横浜市の主要河川における亜鉛濃度の評価とその環境要因との関連性 咸 泳植（東京都市大）</p>
9:45	<p>2B04 富士山地下圏を流れる水と微生物 加藤憲二（静岡大）</p>
10:00	<p>2B05 大規模湧水河川，柿田川のトビケラー種組成の特異性と生物季節 *谷田一三（大阪自然史博）・野崎隆夫（神奈川県二宮町）</p>
10:15	<p>2B06 柿田川における水生生物の栄養起原と食物網構造 竹門康弘（京都大）</p>
10:30	<p>2B07 柿田川における環境保全の取り組み *塩井直彦・伊藤将文（リバーフロント研）・梅村幸一郎・川地淳司（国交省）</p>
10:45	<p>2B08 羽越地方の飯豊山・朝日岳・月山の放射状流下溪流水質の方位分布特性 海老瀬潜一（摂南大）・川村裕紀（キョーワ）・永淵 修（滋賀県大）</p>
11:00	<p>2B09 流況指標から捉える日本の川の特徴 *森 照貴（東京大）・小野田幸生・萱場祐一（土木研）</p>
11:15	<p>2B10 御嶽山噴火（140927）後の周辺諸河川の水質と変化 *小寺浩二・浅見和希・斎藤 圭（法政大）・濱 侃（千葉大）</p>
11:30	<p>2B11 北海道に産する腐植質含有温泉の疎水性酸性物質とそのC:N:P比 *高野敬志・内野栄治（北海道衛生研）</p>

第二日目（9月28日月曜日）午前

開始時間	C会場（講義棟：第5講義室） 河川・湖沼・微生物・植物プランクトン
9:00	2C01 The effect of main flow velocity on stress responses of <i>Vallisneria spiralis</i> L * Sanjaya, Takashi Asaeda（埼玉大）
9:15	2C02 Stress responses of <i>Egeria densa</i> (Planch) under low oxygen concentration. * Mahfuza Parveen, Takashi Asaeda, Md H. Rashid（埼玉大）
9:30	2C03 琵琶湖（瀬田川流心）における動・植物プランクトンの長期変遷 * 一瀬 諭・藤原直樹・古田世子（滋賀琵琶環研センター）
9:45	2C04 高濃度硝酸を含む河川における窒素除去過程 * 大塚泰寛・楊 宗興（東京農工大）
10:00	2C05 汽水湖中海におけるアナモックス反応に関する研究 * 加藤季晋・管原庄吾・江川美千子（島根大）・増木新吾（松江土建）・清家 泰（島根大）
10:15	2C06 布部ダム深水層の窒素浄化に関する研究 * 引野愛子・管原庄吾（島根大）・増木新吾・戸島邦哲（松江土建）・江川美千子・清家泰（島根大）
10:30	2C07 オゾン及び凝集処理による溶存態有機物の特性変化 * 小松一弘・今井章雄・佐藤貴之（国環研），川崎伸之（Universiti Selangor, Malaysia）霜鳥孝一・高津文人・富岡典子・篠原隆一郎（国環研）
10:45	2C08 湖沼における底泥表層の酸素消費速度 * 霜鳥孝一・今井章雄・高津文人・小松一弘・佐藤貴之・富岡典子・篠原隆一郎・三浦真吾（国環研）・桐山徳也・岡本高弘（滋賀琵琶環科研セ）
11:00	2C09 津久井湖・相模湖で観察された青色化現象 - 何を意図するのか - 原田健一・有井鈴江・Beata Bober（名城大）・富田浩嗣（愛知衛研）・辻 清美（神奈川衛研）
11:15	2C10 富栄養湖沼手賀沼における生物生産のための炭素源について * 時枝隆之・葛西真由子・谷口雄哉・伊波はるな・小菅瞭吾（気大校）・中山典子（東京大）
11:30	2C11 湖沼における表層水の高 pH 現象 * 藤井智康（奈良教育大）・藤原建紀（京都大）
11:45	2C12 湖沼における TP-Chl 量関係への温暖化の影響について 坂本充（滋賀県大）

第二日目 (9月28日月曜日) 午後

開始時間	A会場 (第1講義室) 優秀講演賞審査対象セッション (生物)
13:00	2A13 緑藻 <i>Chlorella sorokiniana</i> を用いて水草を原料としたメタン発酵消化液から効率的に栄養塩を除去する条件の検討 *木村成子・山田剛史・伴修平 (滋賀県大)・小山光彦・戸田龍樹 (創価大)・石川可奈子 (滋賀琵琶湖研セ)
13:15	2A14 液体培地と固相培地での <i>Phormidium tenue</i> の増殖生理特性の比較評価 *小野隆行・岸本直之 (龍谷大)・一瀬 諭・古田世子 (滋賀琵琶湖研セ)
13:30	2A15 諏訪湖における糸状藍藻 <i>Mougeotia</i> 属の増殖特性について *二木功子・朴 虎東・宮原裕一・花里孝幸 (信州大)
13:45	2A16 諏訪湖における滞留時間の変動と藍藻優占の関係 *中村剛也・朴 虎東・宮原裕一・花里孝幸 (信州大)
14:00	2A17 諫早湾における microcystin の動態と底生生物への蓄積 *馬淵理恵 (東京大)・梅原 亮 (広島大)・高橋 徹 (熊本保科大)・二木功子・朴虎東 (信州大)
14:15	2A18 水草ヒシ由来の殺藻細菌によるアオコ防除の可能性 *小林淳希・宮下洋平・今井一郎 (北海道大)
14:30	2A19 オオカナダモの有機物排出特性の評価 *辻智也・岸本直之 (龍谷大)
14:45	2A20 湖沼微生物ループを駆動する溶存有機物の起源推定の試み *三角恭平・春日郁郎・栗栖太・古米弘明 (東京大)
15:00	2A21 ヒシ <i>Trapa japonica</i> が小型動物プランクトン群集のハビタット選択に与える影響 *伊藤和輝・花里孝幸 (信州大)
15:15	2A22 淡水産カイアシ類における呼吸速度の温度関数に対する長期馴化の効果 *刘 鑫・伴 修平 (滋賀県立大)
15:30	2A23 富栄養化と温暖化が琵琶湖沖帯深水層のベントス群集に与える影響の評価 *酒井陽一郎・小坂橋忠俊 (京都大)・柴田淳也 (広島大)・谷内茂雄・中野伸一 (京都大)・奥田 昇 (総合地球研)
15:45	2A24 ため池の環境 DNA 量と生物量の比較:池干し時の採捕調査による検証 *相馬理央・片野 泉 (兵庫県大)・源 利文 (神戸大)・高原輝彦 (島根大)・土居秀幸 (兵庫県大)

16:00	<p>2A25 溪流のリターパッチに生息する昆虫における面積 - 密度関係 (I) コカクツツトビケラ種群幼虫におけるパッチサイズ選択と密度効果</p> <p>*天野浩美・加賀谷隆 (東京大)</p>
16:15	<p>2A26 紀ノ川水系の上流域における紀伊半島大洪水の水生昆虫群集の遷移</p> <p>*与世田信忠 (大阪府大)・谷田一三 (大阪自然史博)・平井規央・石井実 (大阪府大)</p>
16:30	<p>2A27 日本列島の河川における最優占種ヒゲナガカワトビケラ種内における遺伝的多様性</p> <p>*齋藤梨絵・加藤慎也 (信州大)・野崎隆夫 (神奈川県二宮市)・東城幸治 (信州大)</p>
16:45	<p>2A28 トゲマダラカゲロウ属幼虫は背景に応じた体色斑の可塑性を示すか?</p> <p>*田村繁明・加賀谷隆 (東京大)</p>

第二日目 (9月28日月曜日) 午後

開始時間	B会場 (第2講義室) 優秀講演賞審査対象セッション (物理・化学)
13:00	2B12 火山性深湖の熱的応答特性：北海道・倶多楽湖 *牧野 晶・知北和久 (北海道大)・大八木英夫 (日本大)・支笏湖：水とチップの会
13:15	2B13 沿岸潟湖の水循環に与える津波堆積物の役割 *前田紳吾・知北和久・ホセイン モタレブ・坂田義隆 (北海道大)
13:30	2B14 3次元音響コアリングシステムを用いた堆積層内の蓮根検出の試み *水野勝紀・劉 曉飛・片瀬冬樹・浅田 昭 (東京大)・村越 誠 (AGS)・八木田康信 (本多電子)・藤本泰文・嶋田哲郎 (伊豆沼財団)・渡辺好章 (同志社大)
13:45	2B15 東北酸性河川における化学成分の動態 中井康平・*大西菜月・杉山雅人 (京都大)
14:00	2B16 炭素安定同位体比と放射性炭素天然存在比を用いた河川溶存無機炭素の起源推定 *石川尚人 (海洋研究開発機構)・陀安一郎 (総合地球研)・山根雅子・横山祐典 (東京大)・坂井三郎・大河内直彦 (海洋研究開発機構)
14:15	2B17 沖縄島河川における高濃度溶存態ウランの供給機構 *望月陽人・細田耕・杉山雅人 (京都大)
14:30	2B18 中途停滞水域の出現が河川化学環境に及ぼす影響とその経時変化—岡山県奥津湖における事例研究— *橋本奈民子・宮下奈緒子・望月陽人・大西菜月・杉山雅人 (京都大)
14:45	2B19 宍道湖における底成層について *管原庄吾 (島根大)・神谷 宏 (島根保健環境科研)・朴 紫暎・江川美千子・清家 泰 (島根大)
15:00	2B20 三次元励起蛍光スペクトル (EEM) -PARAFAC 法を用いた <i>Chlorella</i> sp. および <i>Nitzschia palea</i> 産生有機物の特性解析 *森 朱音・千賀有希子 (東邦大)
15:15	2B21 PARAFAC 解析を用いた気仙沼湾流域における溶存有機物の動態 *富田遼平・福島慶太郎・横山勝英 (首都大)
15:30	2B22 Variations of 2-methylisoborneol synthesis in <i>Pseudanabaena galeata</i> in deep water. Helayaye Damitha Lakmali Abeynayaka, Takashi Asaeda (埼玉大)
15:45	2B23 水草ヒシの藍藻 <i>Microcystis aeruginosa</i> に対する成長抑制物質の同定 *舩山 啓・吉田智恵子・朴 虎東 (信州大)・村田英明 (島津製作所)

16:00	2B24 糸状藍藻類の肝臓毒 cylindrospermopsin 生産特性 *小田祥子(信州大)・新山優子・辻 彰洋(科博)・Quesada Antonio (Universidad Autonoma de Madrid, Spain)・朴 虎東(信州大)
16:15	2B25 香川県六ツ目池における振動発生装置を用いた藍藻の成長阻害 *韓 智仙・Jeon Bong-seok・朴 虎東(信州大)・大林市幸(三祐コンサル)
開始時間	C会場(第5講義室)
13:00	陸水動物ベントス同定会

第三日目（9月29日火曜日）午前

開始時間	A会場（第1講義室） 生物
9:00	3A01 河川における沈水植物群落の分布とその変遷 *片桐浩司・池田 茂・中西 哲・傳田正利・萱場祐一（土木研）
9:15	3A02 Responses of Photosynthetic pigments and Antioxidant enzymes to shocked Heat Stress in <i>Elodea nuttallii</i>. *Hendadura Chandani Chalanika De Silva・Takashi Asaeda（埼玉大）
9:30	3A03 突道湖における突発的な水草繁茂の現況について 國井秀伸（島根大）
9:45	3A04 環境DNA分析によるアユの河川内移動モニタリング *山中裕樹・櫻井 翔（龍谷大）・山本大輔・山本敏哉（矢作川研）
10:00	3A05 環境DNA分析によるコイの季節移動の推定 *内井喜美子（大阪大谷大）・土居秀幸（兵庫県大）・山中弘樹（龍谷大）・源利文（神戸大）
10:15	3A06 新たな環境DNAマーカーとしての核DNAの利用 *源 利文（神戸大）・高原輝彦（島根大）・北吉 匠・辻 冴月・山中弘樹（龍谷大）・内井喜美子（大阪大谷大）・土居秀幸（兵庫県立大）
10:30	3A07 分子系統地理と形態変異からみた日本におけるシグナルザリガニの侵入履歴 *西川 潮（金沢大）・東 典子（北海道大）・Larson Eric (University of Illinois)・Abbott Cathryn (Fisheries and Oceans Canada)・Olden Julian (University of Washington)・赤沼宏美（無所属）・高村健二・高村典子（国環研）
10:45	3A08 ハス群落が拡大する浅い湖沼におけるブルーギルの食性 *鹿野秀一・上坂宗徳・高木優也（東北大）・嶋田哲郎・藤本泰文・芦澤 淳（伊豆沼財団）
11:00	3A09 モツゴの成魚と稚魚の情報化学物質が <i>D. galeata</i> に与える影響の違いについて *平尾 旭・花里孝幸（信州大）

第三日目（9月29日火曜日）午前

開始時間	<p style="text-align: center;">B 会場 （第2講義室） 生物</p>
9:00	<p>3B01 雪氷動物の分類（試論） 福原晴夫（河北潟湖沼研）</p>
9:15	<p>3B02 ナカハラシマトビケラにおける京都・宇治川個体群の形態・遺伝的分化とその地史要因 *小林草平（京都大）・三上賢司（信州大）・野崎隆夫（神奈川県二宮町）・東城幸治（信州大）・竹門康弘（京都大）</p>
9:30	<p>3B03 カメノコヒメトビケラ類の分子系統地理学 ～日本列島の驚くべき種多様性と遺伝的分化～ 新井谷梨鈴（東京大）・伊藤富子（北海道水生生物研）・*東城幸治（信州大）</p>
9:45	<p>3B04 溪流のリターパッチに生息する昆虫における面積 - 密度関係（II） 野外での各種のパターン *加賀谷隆・天野浩美（東京大）</p>
10:00	<p>3B05 福島県松ヶ房ダムにおける底質中の放射性セシウム濃度分布 *辻 英樹・高津文人・佐藤貴之・伊藤祥子・林誠二（国環研）</p>
10:15	<p>3B06 福島県沼沢湖における放射性セシウムの挙動 *野原精一・亀山哲・玉置雅紀（国環研）・金山進（五洋建設）</p>
10:30	<p>3B07 栃木県中禅寺湖流出河川における福島第一原発事故の放射性セシウム放出による水生昆虫等の汚染について *吉村真由美・赤間亮夫（森林総研）</p>
10:45	<p>3B08 大分県日田市の三隅川水系における泡状物質中のバイオマーカーによる起源生物の解明 *井上源喜（大妻女子大）・川野田實夫（大分大），日田市環境課</p>
11:00	<p>3B09 中国・太湖における溶存有機物の化学組成とシアノバクテリア及び細菌群集の関係について *早川和秀（滋賀琵琶湖科研セ）・中村恭子・藤永承平・中野伸一（京都大）・Gu Yilu・Li Renhui（中国科学院）・Sun Fuhong・Wu Fengchang（中国環科研究院）</p>

第三日目（9月29日火曜日）午前

開始時間	C会場（第5講義室） モデル・解析・定量・微量元素・化学物質
9:00	3C01 ナウキャストシステム構築へ向けた琵琶湖における流れ場の解析 *青田容明・AUGER Guillaume・WELLS John（立命館大）
9:15	3C02 気候変動が湖沼の物質循環に与える影響の数値解析 北澤大輔（東京大）
9:30	3C03 非定常的な堆積物からのリン溶出に関する数値実験 *井上徹教（港空技研）・中村由行（横浜国大）
9:45	3C04 水電解法に基づいた浄化装置による富栄養化した池の環境改善への試み *Jeon Bong-seok, 韓 智仙, 朴 虎東（信州大・理）
10:00	3C05 琵琶湖北湖底質-湖水間における有機態炭素の動態解析 *布施泰朗・櫻木俊太・津田 瞳（京工繊大）・岡本高弘・奥居紳也・早川和秀（滋賀琵琶湖科研セ）・柄谷 肇・山田 悦（京工繊大）
10:15	3C06 ヤマトシジミの貝殻内部で発生する硫化水素の定量について *鈴木 舞・菅原庄吾（島根大）・勢村 均（島根水技セ）・神谷 宏（島根保健環科研）・江川美千子・清家 泰（島根大）
10:30	3C07 谷津干潟におけるグリーンタイド現象と水質 *千賀有希子・根立竜馬・盛合哲史・山内翔平・和田憲昭・近藤拓未・宮田 勉・森 朱音・佐藤 翼・成岡知佳・矢部詩織（東邦大）・北沢俊幸・李 盛源・白木洋平（立正大）
10:45	3C08 炭酸化学種が支配する塩湖湖水中の微量元素の分布と動態 *望月陽人・細田 耕・杉山雅人（京都大）
11:00	3C09 淡水植物プランクトンの増殖に及ぼす鉄キレート物質の影響 *内藤佳奈子（県立広島大）・辻村茂男（京都学園大）・丸尾雅啓（滋賀県大）・今井一郎（北海道大）
11:15	3C10 有害化学物質による湖沼生物群集への影響：種・個体レベルから個体群・群集レベルへ *坂本正樹・河鎮龍（富山県大）・真野浩行（土木研）・片岡知里・柏田祥策（東洋大）

第三日目（9月29日火曜日）午前

開始時間	<p style="text-align: center;">D会場（第6講義室）課題講演</p> <p>「ユスリカ科昆虫の多様性研究の進展 – 形態分類とDNAバーコーディングの両輪 –</p> <p>コンビーナー：高村健二（国環研）</p>
9:30	<p>開会，趣旨説明</p> <p>高村健二（国環研）</p>
9:40	<p>3D01 種同定のためのユスリカDNA抽出 – 目的に応じた手法検討</p> <p>奥田しおり・*今藤夏子・大林夏湖・上野隆平・高村健二（国環研）</p>
9:55	<p>3D02 ユスリカ科昆虫の形態同定とDNA塩基配列クレードの整合性について</p> <p>*上野隆平・高村健二・今藤夏子・奥田しおり・大林夏湖（国環研）</p>
10:10	<p>3D03 DNA塩基配列に基づいて幼虫標本から正確な種数を知る</p> <p>*高村健二・上野隆平・今藤夏子・奥田しおり・大林夏湖（国環研）</p>
10:25	<p>3D04 諏訪湖沖帯におけるユスリカ類の密度の変遷とオオユスリカグループの分布</p> <p>*平林公男・宮原裕一・花里孝幸（信州大）・今藤夏子・上野隆平・高村健二(国環研)</p>
10:40	<p>3D05 ユスリカ幼虫の生態と系統進化との関わりについて</p> <p>*河合幸一郎，阿武沢磨（広島大）</p>
10:55	<p>3D06 ユスリカ科昆虫の研究，今後の課題 – 形態分類学の立場から –</p> <p>*山本 優（下関市）</p>
11:10	<p>結語，閉会</p> <p>高村健二（国環研）</p>

第三日目 (9月29日火曜日: 10:00~14:00) ポスター発表 (+, 優秀ポスター賞審査対象)

発表番号	演題及び氏名 (所属)
P-1	佐久間ダムの延命と天竜川の河川機能回復のための提案 戸田三津夫 (静岡大)
P-2+	谷津干潟におけるグリーントイド現象が微生物機能に与える影響 *根立竜馬・佐藤 翼・千賀有希子 (東邦大)
P-3	汽水湖における有機汚濁指標 *小川竜平・戸田三津夫 (静岡大)
P-4	青森県六ヶ所村の汽水湖鷹架沼における湖底湧水量の分布 *長谷川英尚・植田真司・久松俊一 (公財環境科技研)
P-5	浮遊砂サンプラーによる懸濁粒子態セシウムの流出量推定 *植田真司・長谷川英尚・落合伸也・柿内秀樹・大塚良仁・久松俊一 (公財環境科技研)
P-6	福島原発事故2年後の気仙沼湾流域における放射性セシウムの輸送と分布 *福島慶太郎・橋本達範 (首都大東京)・河野益近 (京都大)・横山勝英 (首都大東京)
P-7	印旛沼における淡水魚類の放射性セシウム濃度と体長・食性との関係 *鏡味麻衣子・泉川幸希・風呂田利夫 (東邦大)・石井伸昌 (放医研)
P-8	金沢市近郊を流れる4河川の水質特性を溶存化学種のプロファイルから観る *藤永 薫・大嶋俊一・渡辺雄二郎・小松 優 (金沢工大)
P-9	発表取り消し
P-10	修飾 β -CD を用いたアミノ酸アミノ酸抽出 *児玉光樹・戸田三津夫 (静岡大)
P-11	懸濁態生物起源ケイ素の分析法改良とバイカル水系試料への適用 *細田 耕・望月陽人 (京都大)・三村徹郎 (神戸大)・渡辺泰徳 (立正大)・佐藤泰哲 (山形大)・Valentin V. Drucker・Vladimir A. Fialkov (ロシア科学アカデミー)・杉山雅人 (京都大)
P-12	深見池の護岸工事による堆積速度の変化 *大八木麻希 (四日市大)・加藤義久 (東海大)・八木明彦 (愛知工大)
P-13+	深見池における微量元素鉛直分布の特徴 *登めぐみ・寺野ひろ実・岩月栄治・八木明彦 (愛知工大)
P-14	淡水湖沼底泥における間隙水中溶存有機物の分子サイズ分布と糖類組成の関係 *佐藤貴之・今井章雄・高津文人・霜鳥孝一・小松一弘 (国環研)・岡本高弘・桐山徳也 (滋賀琵琶湖科研セ)・篠原隆一郎・富岡典子 (国環研)

P-15+	<p>諏訪湖における貧酸素水塊の形成とその要因</p> <p>*吉田知可・宮原裕一（信州大）</p>
P-16+	<p>溶存・懸濁態炭素に着目した温度成層湖である涌池の好気・嫌気環境における炭素循環の解析</p> <p>*丹 佑太・中川麻悠子（東京工大）・大八木英夫（日本大）・豊田 栄・吉田尚弘（東京工大）</p>
P-17	<p>涌池における水温躍層の形成と溶存酸素の挙動について</p> <p>*大八木英夫（日本大）・丹佑太・中川麻悠子（東京工大）</p>
P-18	<p>琵琶湖および流入河川水中の SRP とイオンクロマトグラフィーによる正リン酸定量値の比較</p> <p>*丸尾雅啓・石丸真菜（滋賀県大）・小畑 元（東京大）</p>
P-19+	<p>三次元励起蛍光スペクトル (EEM) -PARAFAC 法を用いた尾瀬ヶ原池澮の溶存有機物の解析</p> <p>*成岡知佳（東邦大）・野原精一（国環研）・千賀有希子（東邦大）</p>
P-20	<p>ポリエチレングリコールと α-シクロデキストリン系ポリロタキサンの親媒性調整</p> <p>*宮川菜々江・戸田三津夫（静岡大）</p>
P-21	<p>ベトナム・メコンデルタの水田における水・土壌環境</p> <p>*飯泉佳子（国際農研），近藤始彦（農食産技術総研），渡邊 武（国際農研）</p>
P-22+	<p>人為的な分断化が著しい河川での水温分布</p> <p>*梶浦平旭・山田佳裕（香川大）</p>
P-23	<p>環境教育教材の作成を目的とした中国山西省沁河における水質調査</p> <p>*渡邊圭司・木持 謙・王 効挙・田中仁志（埼玉環科国際セ），袁 進・喬 曉榮・李 超・恵 曉梅・斉 朔風（山西省生態環境研究中心）</p>
P-24	<p>埼玉県と姉妹友好省中国山西省との水環境保全モデル事業の概要及び沁河における水生生物調査</p> <p>*田中仁志・木持 謙・渡邊圭司・王 効挙（埼玉環科国際セ），袁 進・李 超・喬 曉榮・恵 曉梅・斉 朔風（山西省生態環境研究中心）</p>
P-25	<p>排水河川落堀川（新潟県北部）の陸水生物相</p> <p>*伊藤 章・伊藤正一・松本史郎・富樫繁春・佐藤 豊・安部信之・帆苺信夫・帆苺信（新潟河川生態研究グループ）</p>
P-26	<p>一庫ダム下流域における底生動物群集の季節変動と土砂還元の効果</p> <p>*片野 泉・中村大作・小林優太郎・三橋弘宗・土居秀幸（兵庫県立大）</p>
P-27	<p>脂肪酸バイオマーカーを用いたイシガイ科二枚貝類の同化餌源の推定</p> <p>*藤林 恵（東北大），西尾正輝（氷見教委），西村 修（東北大），田中仁志（埼玉環科国際セ）</p>

P-28+	<p>環境 DNA 手法の新展開：魚類個体群の遺伝的多様性評価の試み</p> <p>*辻 冨月・山中裕樹（龍谷大）・源 利文・山本哲史（神戸大）</p>
P-29+	<p>東アジア地域のマダラカゲロウ種群（昆虫綱・カゲロウ目・マダラカゲロウ科）における比較分子系統地理学的研究</p> <p>*趙 在翼・東城幸治（信州大）</p>
P-30	<p>河北潟から流下した懸濁物質の感潮域における拡散・沈降過程</p> <p>*永坂正夫（金沢星陵大），高野典礼（石川工高専），右形聡志（東洋設計）</p>
P-31	<p>中海におけるサルボウガイの HSI モデルでみた干拓堤防開削の影響</p> <p>*山口啓子・篠原隆佑（島根大）</p>
P-32	<p>ミナミメダカの耳石分析～耳石に記録される生息塩分～</p> <p>*田久保剛史・福島康文（島根大）・坂井三郎（海洋研究開発機構）・山口啓子（島根大）</p>
P-33	<p>琵琶湖における計量科学魚探を用いたアナンデールヨコエビ定量化に関する研究</p> <p>*石川可奈子・永田貴丸・井上栄壮（滋賀琵琶湖環科研セ）・向井 徹・飯田浩二（北海道大）</p>
P-34	<p>植物プランクトンの鉛直分布は強光阻害の影響を受けているか？：2014 年琵琶湖北湖での検証</p> <p>*石川俊之・青谷早希・穴田雄大（滋賀大）</p>
P-35	<p>デジタル PCR を用いた環境 DNA による生物量・生物分布推定</p> <p>*土居秀幸（兵庫県大）・内井喜美子（大阪大谷大）・高原輝彦（島根大）・松橋彩衣子（兵庫県大）・山中裕樹（龍谷大）・源 利文（神戸大）</p>
P-36	<p>発表取り消し</p>
P-37+	<p>大型湖沼の有酸素深水層で優占する浮遊細菌 CL500-11 の生態学的研究</p> <p>*岡崎友輔・程木義邦（京都大）・田中敦（国環研）・中野伸一（京都大）</p>
P-38+	<p>Carbon, nitrogen and phosphorus stoichiometry of freshwater zooplankton during algal blooms and non-bloom period in eutrophic reservoir</p> <p>*Jin Mei-yan, Chang Kwang-Hyeon, Oh Jong-min (Kyung Hee Univ.), Nam Gui-Sook (Korea Rural Community Corporation)</p>
P-39+	<p>Biomanipulation in agricultural reservoir: combination of fish removal and continuous herbivore release from culture facility</p> <p>* Seo Dong-II, Chang Kwang-Hyeon (Kyung Hee Univ.), Nam Gui-Sook, Lee Eui Haeng (Korea Rural Community Corporation)</p>

P-40	アンバランスな食物網構造の湖沼生態系の解明：佐鳴湖のプランクトン食物網の不思議 * 中野伸一（京都大）・谷 幸則（静岡県大）・高巢裕之（東京大）・岸本 結・藤永承平（京都大）
P-41	横浜市における止水性水生昆虫相の特徴 * 佐野真吾・吉崎真司（東京都市大）
P-42+	藻類バイオマス利用を想定したミドリムシ藻綱 <i>Euglena gracilis</i> 回収方法の検討 * 鳥原健太・岸本直之（龍谷大）・野田寿一郎（Loch Energy Ltd.）
P-43	河川の生態影響評価に向けた水生昆虫の生息実態調査手法の提案 * 相子伸之・矢吹芳教（大阪環境農林水総研）・大塚宜寿・田中仁志（埼玉環 科国際セ）
P-44	河川生態系の生物多様性と栄養循環機能：流域スケールからのアプローチ * 奥田 昇（総合地球研）・岩田智也・林拓矢（山梨大）・村上綾（京都大）・陀 安一郎（総合地球研）・石川尚人（海洋研究開発機構）・岡野淳一（京都大）・富 樫博幸（水産総研セ）・中野伸一・酒井陽一郎（京都大）
P-45	Ca と Mg の濃度に依存した Cu の急性毒性：カブトミジンコとオオミジンコの比 較 * 河 鎮龍（富山県大）・加茂将史（産総研）・坂本正樹（富山県大）
P-46+	猪苗代湖における細菌群集の環境適応（有機物取り込み活性による比較） * 成田弥生・日野修次（山形大）
P-47+	富栄養湖（白竜湖）の細菌群集における溶存態有機物の適応性 * 東海林洵・日野修次（山形大）
P-48+	猪苗代湖における耐酸性およびアルミニウム耐性菌の環境変動に対する適応 * 倉本純弥・日野修次（山形大）
P-49+	Nanoparticle impacts on rice field ecosystem: microcosm assessment of manufactured titanium and silver-nanoparticle toxicity on zooplankton community. * Go Soon-Mi, Chang Kwang-Hyeon, Yeo Min-Kyeong（Kyung Hee Univ.）
P-50	琵琶湖ヨシ帯における pH と溶存酸素濃度の関係 * 石川俊之・佐々木紀瑛・齋藤可奈子（滋賀大）
P-51+	衛星画像を用いたアジア湖沼のアオコモニタリング * 荒居博之（筑波大）・尾山洋一（阿寒エコセ）・松下文経・福島武彦（筑波大）
P-52	Web アンケートによる湖沼に対する住民の環境意識分析：霞ヶ浦，諏訪湖，琵琶 湖の湖沼間比較 * 川村志満子・福島武彦（筑波大）
P-53+	中央アジア・イシクル湖及びその集水域における水環境 * 齋藤 圭・小寺浩二・前杵英明・濱侃（千葉大）

P-54+	<p>五島列島の河川水質と流域環境に関する研究</p> <p>＊池上文香・浅見和希・阿部日向子・齋藤 圭・小寺浩二（法政大）</p>
P-55+	<p>高山湖沼の水環境—中部地方を中心に—</p> <p>＊浅見和希・小寺浩二・齋藤 圭（法政大）</p>
P-56	<p>播磨灘と流入河川にける溶存有機物・栄養塩類の動態とクロロフィル a の分布</p> <p>＊鈴木智代（岡山理大）・内山千沙・相馬理央（兵庫県大）・千賀有希子（東邦大）・早川和秀（滋賀琵琶湖科研セ）・藤井智康（奈良教大）・杉山裕子（岡山理大）・片野泉・熊谷哲（兵庫県大）</p>
P-57+	<p>西湖・精進湖・本栖湖の水質長期変化傾向と水質に及ぼす気象の影響</p> <p>＊猪又智裕・福島武彦（筑波大）・吉澤一家・長谷川裕弥（山梨衛環研）</p>
P-58	<p>河川におけるオイカワ（<i>Zacco platypus</i>）の行動と河川内分布</p> <p>＊武村達也・豊福晋作・遊磨正秀（龍谷大）</p>
P-59+	<p>淡水生態系で優占する細菌：LD12 系統の琵琶湖における季節変動</p> <p>＊藤永承平・中野伸一（京都大）</p>